

事例研究報告

特別支援学校小学部児童が ひらがなを書くための指導

児童の実態

- 小学部 知的障がい
- 文字または写真やイラスト付きのスケジュールを見て、次の活動に移動できる。
- 簡単な動作の模倣ができる。
- ひらがな、カタカナの清音、20までの数字を読むことができる。
- 発音が不明瞭で、聞き取りにくい言葉がある。
- 十や〇を視写することができるが、△や□は難しい。

保護者の願い

ひらがなやカタカナが書けるようになってほしい。

教員の願い

将来的にはひらがなやカタカナが書けるようになってほしい。



そのために、今できることから
少しずつ積み上げていきたい。

アドバイザーからの助言(1)

①「視写」・・・見ることに集中してしまう。

↓
全体像が見えなくなっていることがある。

②「書く」動作・・・運動

→繰り返し行うことで頭に入りやすくなる。

③モチベーションを高めるために・・・

- ・トークンを取り入れる。
- ・強化子のバリエーションを増やす。
- ・効果音をつける。

助言を受けての見直し

〔指導目標の見直し〕

見本を**見ながら**，○や十，□や三角を**視写する**ことができる。

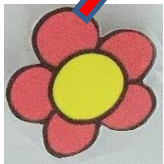
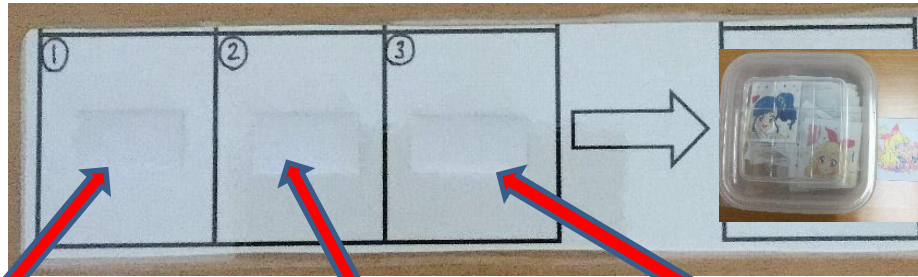


「**●○○**」の『**●**』を書いて。」の言葉かけを**聞き**，ひらがなの清音を書くことができる。

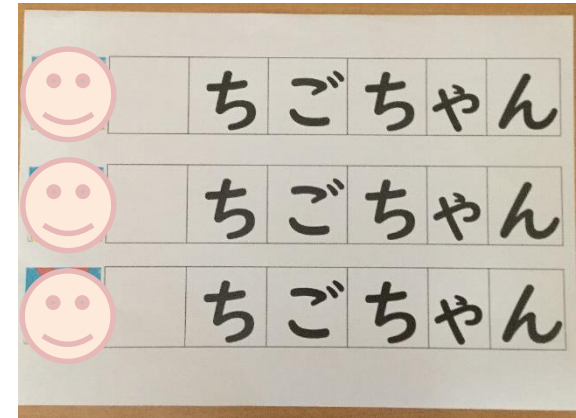
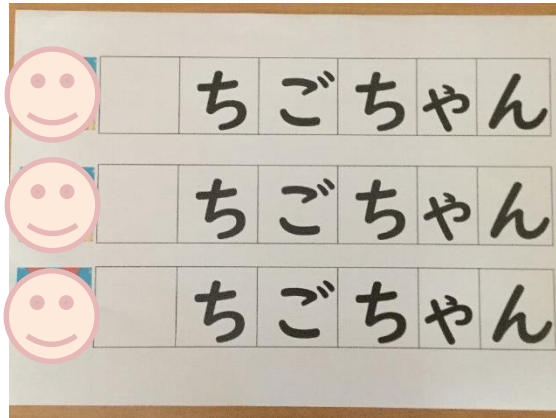
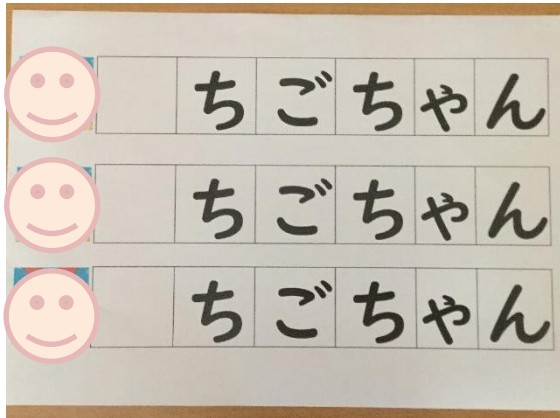
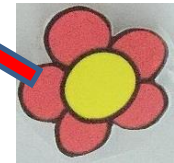
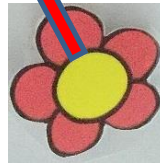
〔教材の見直し〕

児童が好きなキャラクターと結びつけて覚えやすくした。
量や終わりを分かりやすくした。

指導の手続き



花丸シール



指導の手続き

指導1

教員が手を添えて書く



児童一人で書く

指導の手続き

指導2

教員が手を添えて書く

ちごちゃん

ちごちゃん

ちごちゃん

児童一人で書く

指導の手続き

指導3

ちごちゃん

ちごちゃん

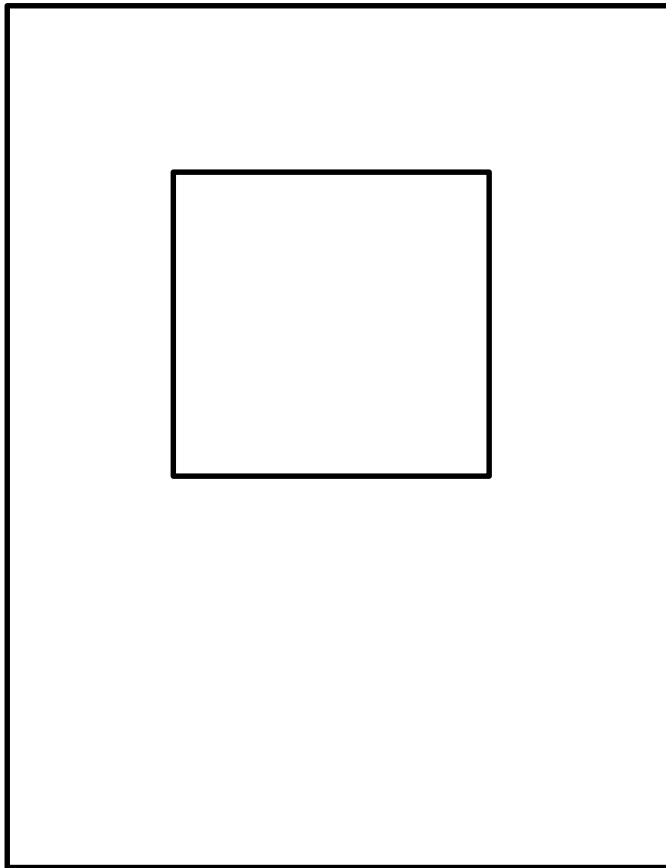
ちごちゃん

児童一人で書く

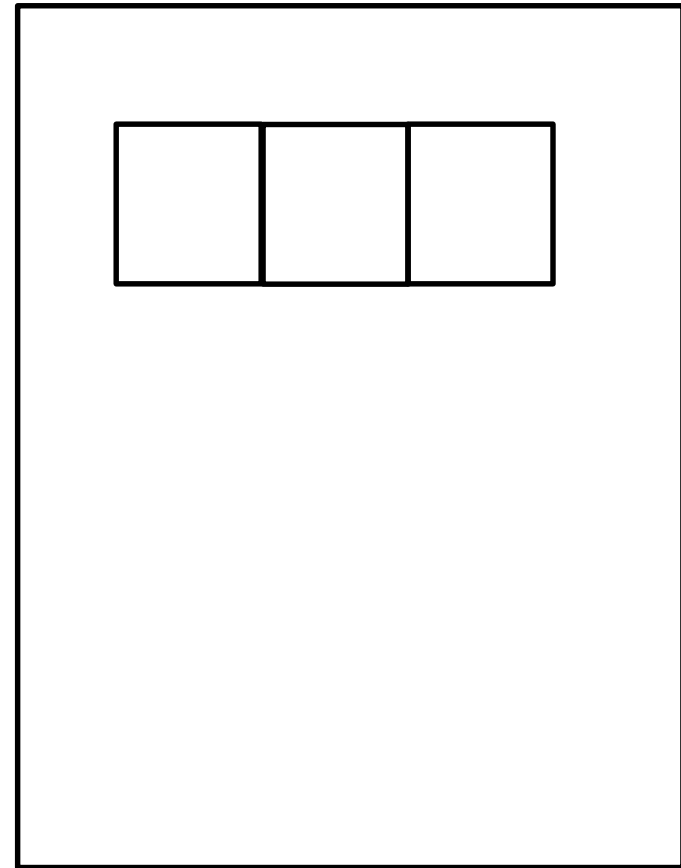
指導の手続き

指導4

<い><こ> (~1/23)の形式



<こ>の形式(1/24~)



児童一人で書く。ヒントをなくし、言葉かけのみ

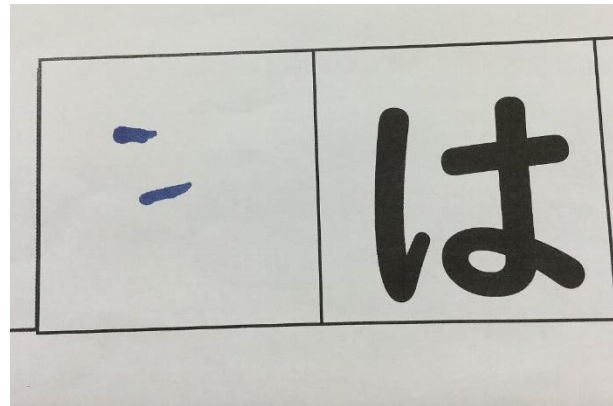
記録方法

正しく書くことができた数

× 100 = ○○%

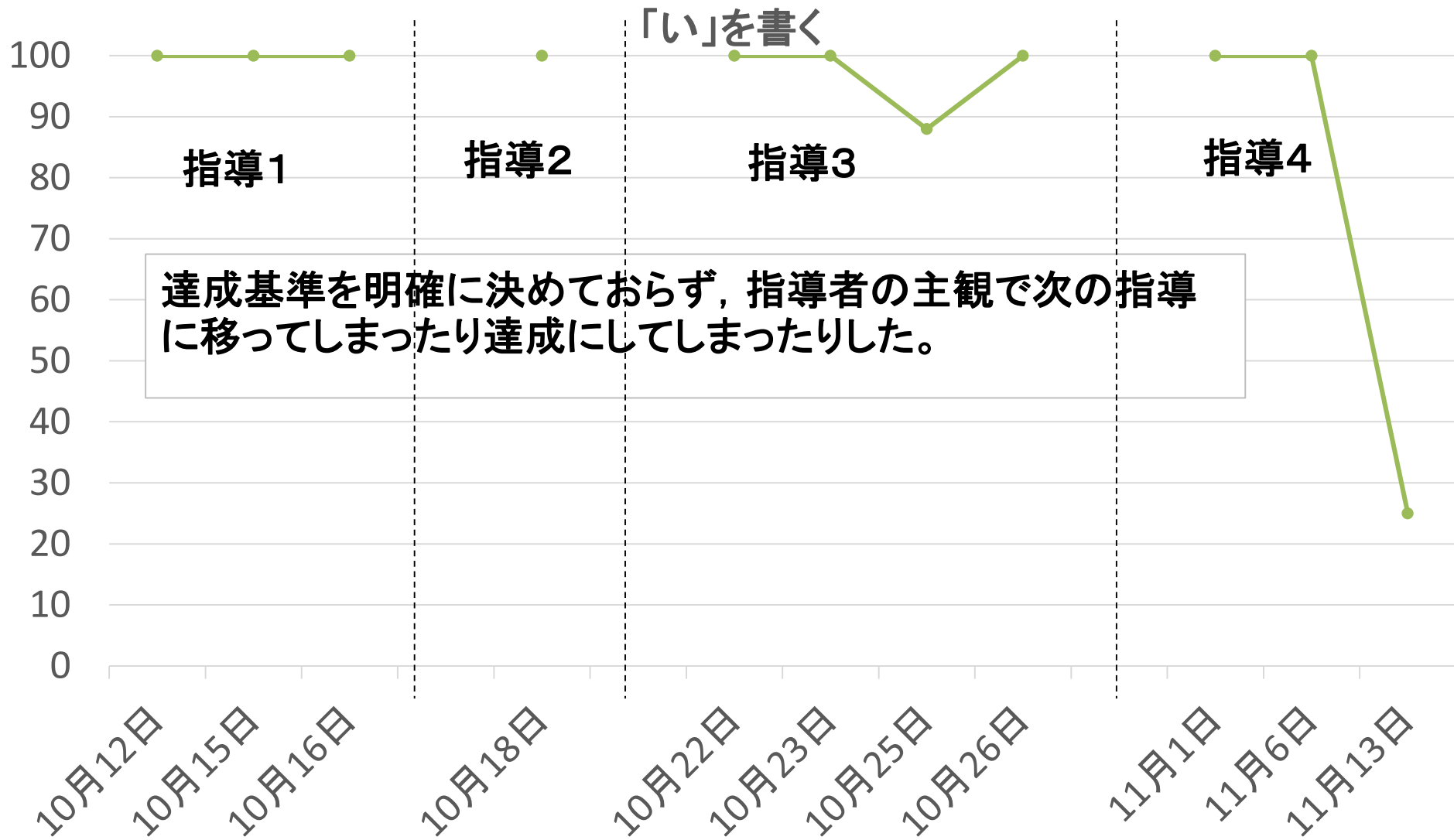
1回の学習で書いた数

「正しく」って??

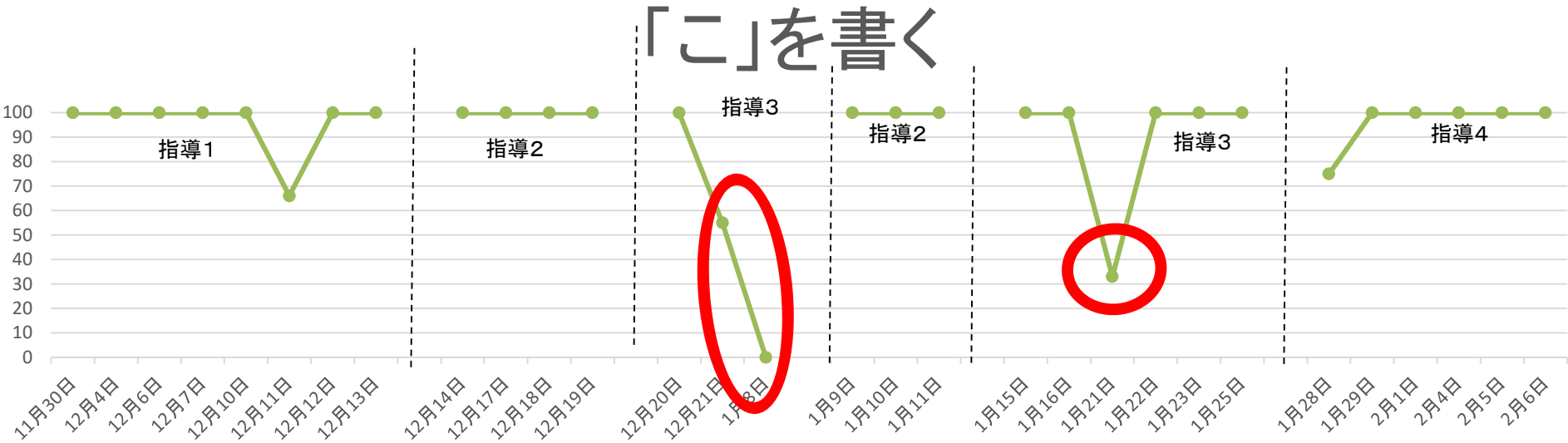


ケース会で話し合い、
様々な教員で評価した。

結果

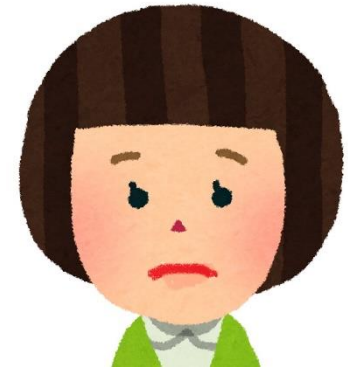


結果



指導3で100%にならなかった日は「い」を書いていた。

どうしてだろう??



アドバイザーからの助言(2)

文字としての
弁別はできて
いる

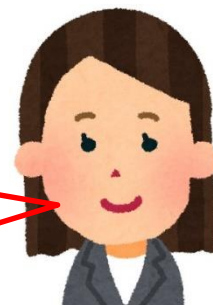
文字として「い」と「こ」が弁別できているか？

- ・文字カードを読む→○
- ・プリントの空欄に文字カードを当てはめる→○
- ・プリントを提示しながら「何の字を書く？」と聞く→○

効果音(シュツシュツ)
が同じだった・・・。



見たものと手が協応する。
→ハードルが高い。



アドバイザーからの助言(2)

- ① 「い」と「こ」・・・運動としての動きが似ている。
(線を2本)



どちらかを最後まで指導し、次は全く異なる文字(今回は「し」)を指導する。

- ② プリント学習→文脈を変えて継続する。
児童の好きなもの(歌・ダンス)と結びつける。
「やりたい！」と思う文脈を設定する。

成果と今後の課題

- ・「い」に関しては、学習場面以外の場面で様々な大きさ(丸シール・直径10cm程度の紙)で書くことができた



- ・今後は、児童が好きなものと結びつけ「文字を書くことが楽しい！」「もっと書きたい！」と思えるような活動を考えたい